

2023年3月22日
草の根技術協力
ナレッジフォーラム

JICA国内機関の視点
中国センター
澁谷 和朗



はじめに

- 「JICAはお金を出すだけですか？コンセプトはないのですか？」
- 草の根技術協力は、提案に対する助成金事業ではなく、実施団体とJICAとの協働事業
- しかし、現実には実施団体 = 事業の実施主体、JICA = 事業・契約管理という構図になる
- JICAは草の根技術協力においてどのような付加価値をつけられるのだろうか

各県の地域特性との関係

- **広島**：平和構築（カンボジア、 フィリピン・ミンダナオ：広島県・広島大学）
- **岡山**：社会福祉（中国：社会福祉法人旭川荘、ベトナム：津山市＋社会福祉法人やすらぎ福祉会）、環境（カンボジア：岡山大学）
- **山口**：環境関連（インドネシア、中国：宇部市）
- **島根**：地域創生（インドネシア酪農：大田市、ブータン美術教育：浜田市（旧三隅町）、ブータン問題解決学習：海士町、ブラジル環境教育：しまね国際センター）
- **鳥取**：モンゴル（医療・農業）

成果（ベトナム高齢者介護予防）

- 急速な高齢化（財政、体制、人員）ニーズへの対応
- ベトナム政府からの期待を踏まえ、フェーズ1（ハノイ）→フェーズ2（国内4地区）へ発展
- JICAとして支援が手薄な領域（草の根技術協力の存在感大）
- 日本の教訓を踏まえつつ、現地文脈に沿った事業を実施

成果（ブータン美術教育支援）

- 1983年からの長いブータンとの交流を基盤
- 2013年美術がカリキュラムに新規導入。美術教師の授業実践能力強化を支援。第2フェーズ目。
- 効果（市民との交流、大学生の参加（画材送付）、協力隊任地の子ども達の絵画を展示）

課題

- パートナー型：チャレンジできる経験・実施体制のあるNGOが少ない
- 地域提案型：自治体の国際協力への関与の強化がどこまでできるか
- 支援型：資金規模が限られるため、どう発展的にしていけるのか
- 共通
 - 経理処理（特に大学は研究科・学部事務、本部経理など複数の部署が関係）
 - 契約締結、契約からの修正点の合意（打合せ簿/契約変更）、精算をスムーズに遂行する体制
 - 実施団体⇔JICA国内機関の個別のやり取りではなく、実施団体間で国際協力、市民参加協力のナレッジを共有、蓄積できる仕組み

これからの展望（実施団体さんと共に）

- 点と点を線でつなぎ、面にする

- 実施団体間の実践事例共有の場（この2年間）、一般の方との共有（今後）
- 草の根技術協力事業を超えたつながりの強化・付加価値の提供（市民参加イベント、人材育成、広報）

- 二国間をつなぐ立場から

- 母国と日本を行き来する還流人材への支援（例：介護人材のキャリアアップ）

- 地方創生と国際協力の掛け算の強化

- ローカルなアクターが国際協力に関わることで、多様性の尊重というグローバルな視点をより意識できるのではないか
- よそ者・外国人の視点から、魅力ある地域・地方にするために何ができるか
- これからの日本社会が直面する多文化共生に向けた基本的な資質として活かせないか